



このたびの新潟県中越地震並びに相次ぐ台風により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

不動産経済実務セミナー名古屋と福岡で開催されました ～アースアプレイザル九州から報告～

2004年10月14日名古屋、10月25日福岡にて開催されたセミナーには、名古屋508名、福岡500名と定員を大幅に上回るお客様にお越しいただきました。ありがとうございました。

福岡会場の神野健二先生は、「土壌汚染問題を解決するには、社会全体で負担する領域と汚染原因者に帰属する領域に区分して取り組むことが望まれる。そのためには、土壌汚染の実態を科学的根拠に基づいた合理的判断により、冷静に対応すべきである。また、実行体制の確立や環境修復への強い意思が不可欠。放置すればボディーブローのように効いてくることになる。」とまとめられ、汚染サイト浄化を土壌汚染対策法の制約という観点のみならず、環境改善のチャンスとして捉えることの大切さを聴衆に訴えておられました。

土壌汚染は地価の目減りや市民の動揺を招くことから、土地取引の場面ではとかく敬遠される傾向にあったことは否定できません。また、首都圏を中心に徐々に経済活動が上向いてきているとの報告はありますが、地方ではまだまだ回復基調に乗ったものとは言えませんし、さらに土壌汚染は普段なじみが無い地盤や地下水の悪化現象であり、問題解決には高度な専門性が必要となることも問題を複雑化しています。このような背景のなか土壌汚染対策法・宅建業法などが制定・改正され、少なからず不動産など各業界は戸惑っているのが現状のようです。しかしながら、今後不動産取引の関係者は必然的に土壌汚染の対応についても、忠実義務と注意義務を強化しなければならなくなりました。

株式会社アースアプレイザル九州 代表取締役 杉谷和彦

福岡市中央区天神 4-2-36 天神栄泉ビル 3階

TEL:092-726-1100 FAX:092-726-1077

『石綿(アスベスト)』と『岩綿(ロックウール)』

石綿(アスベスト)繊維を含んだ粉塵が健康被害の原因となることから、吸音・断熱・耐火建材として活用されていた石綿(アスベスト)材の使用禁止措置がとられているのは、ご承知のとおりですが、機能的に類似の製品に『岩綿(ロックウール)』があります。その名前と機能の類似性から、岩綿(ロックウール)をアスベストと同様に有害と誤解している方もいますが、石綿(アスベスト)が天然鉱物繊維(結晶質)であるのに対して岩綿(ロックウール)は人造鉱物繊維〔非晶質(ガラス質)〕であり、成分と構造的に全く別物ですし、発ガン性等の健康被害報告もないとのことで、建材としての各種対応〔衛生上・環境上・廃棄物、等々〕も異なっています。

但し、昭和54年(1979年)以前の吹付けロックウールや昭和63年(1988年)以前のロックウール吸音天井板にはアスベストを混合している製品もあるとのことで注意が必要です。

従って、建材に岩綿(ロックウール)が使用されている場合には、アスベストとは別の観点で評価する必要があります。

〔参考：ロックウール工業会 H.P. : <http://www.rwa.gr.jp/HtmlFiles/FAQ.html>〕

株式会社アースアプレイザル 中村 裕昭

Environmental column

沖縄の青い海と、地下水

私事ですが、次女の結婚式で沖縄に行ってきました。沖縄の海は綺麗ですが、川は綺麗ではありません。特に南部の市街地にある川は、見るも無残でした。でも、最近は少しきれいになったようです。琉球石灰岩を流れる地下水は、鍾乳洞などで見る限りはきれいです。その地下水に大きな汚染問題が過去に生じた事がありました。

昭和 50 年ごろの事ですが、東アジア最大の米軍基地と言われる『嘉手納基地』の周囲で、汲み上げた地下水が燃えたのです。火を消す水が火に油を注ぐ事になってしまったのです。原因は明らかです。嘉手納基地のジェット機の燃料が長期間に渡って漏洩し、地下水の流れに乗って拡散したのです。井戸には数センチの油層が出来てしまいました。当時は日本に返還されたとはいえ、主導権は米軍が握っていました。米軍は基地の施設を修繕しましたが、住民の水については沖縄県が処理しなくてはなりませんでした。沖縄にはまだまだ多くの米軍基地が存在しています。徐々に返還されるものと思いますが、基地には油槽施設が数多く存在しています。それが全て漏洩しているとは断言できませんが、米国本土でも基地からの油汚染の事例が多く報告されている事からも、基地での油汚染は避けられないものと考えられます。返還されてから汚染に取り組むのではなく、現状を把握する事から始めて、今から浄化の準備を考えておく事も必要ではないでしょうか。

沖縄も上水道の普及が進んでいます。しかし、貯水池は決して十分ではありません。十数年前には日照りが続くと直ぐに断水になっていました。そんな時にでも地下水が使えるようになっていれば安心です。いや、沖縄だからこそ安心して地下水が使えるようにすることが課題と言えると思います。

今月の担当：アースアプレイザル

取締役 西田 道夫 技術士（応用理学・建設）

今回の EAnetwork いかがでしたでしょうか。このニューズレターへの感想や土壌汚染に関するご質問など、お気軽に Fax または news@earth-app.co.jp までご連絡ください。

この EAnetwork は、過去に弊社セミナーにご参加いただいた方及び弊社へ調査のご依頼を頂いたお客様にお送りしております。以後メーリングリストでの配信希望の方は、下記にチェックの上 FAX にてご返送、または news@earth-app.co.jp までご連絡ください。

また、今後配信を希望されない方は、お手数ですが同様にご連絡ください。

編集者：藤井史枝
アースアプレイザル株式会社
TEL: 03-5298-2151
FAX 03-3252-5411

会社名

お客様名

次回の配信から、メーリングリストでの配信希望 e-mail:

次回の配信を希望しない

コメント

アースアプレイザルグループおよび業務提携先

札幌アースアプレイザル（北海道）、アースアプレイザル N・E（神奈川）、中央開発・基礎地盤コンサルタンツ・ジオテック・りんかい日産建設・協和地下開発（関東）、アイエーシー（神奈川）、細野建設（長野）、トーエネック・フルエング・東邦地水（中部）、建設基礎調査設計事務所（静岡）、阪神測建（関西）、三協エンジニア（奈良）、エイトコンサルタント（岡山）、復建調査設計（広島）、藤井基礎設計事務所（島根）、日本地研・アースアプレイザル九州（福岡）